

## 日本医師会横倉義武会長 アジア大洋州医師会連合会長就任 ～CMAAO東京総会開催～



総会式典の様子



就任演説をする横倉会長

第32回アジア大洋州医師会連合(CMAAO)東京総会が9月13日から15日までヒルトン東京お台場で開催され、第35代CMAAO会長(2017-2018年)に日本医師会会长横倉義武先生が就任された。

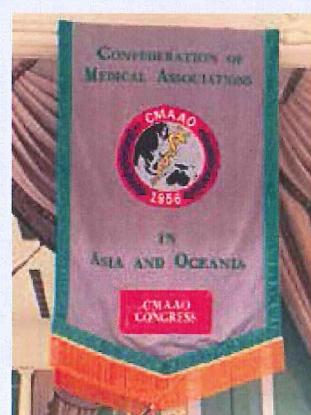
CMAAOは、1956年、アジア大洋州地域の医師の交流促進、国際機関との関係確立、情報交換などを通じて、地域住民の一層の保健水準の向上を目的に日本医師会が中心となって設立されたもので、現在では18カ国の医師会が加盟し、WMAの地域医師会連合として、WMA内におけるアジアからの発言力の強化を図っている。

13日に行われた新会長就任式で横倉会長は、「日本の優れた医療システムを世界に発信することで、世界の人々の幸福に結びつけたいという思いを強くした」と就任演説を行い、本年10月に世界医師会長に就任することから、「WMAとの関わりをより緊密にし、アジア大洋州地域の医師の声がWMAに届くよう努めたい」と抱負を述べられた。

3日間の会期中に各国医師会によるカントリーレポート、終末期医療をテーマとしたシンポジウムが行われ、全体討議で報告書が纏められた。



CMAAO組織メンバーとの記念写真



CMAAO旗

## 速報

# 日本医師会横倉義武会長 第68代世界医師会長に就任 ～世界医師会シカゴ総会～

10月13日、世界医師会(WMA)シカゴ総会において、日本医師会横倉義武会長が第68代世界医師会長に就任された。

横倉会長は、就任式で「無医村だった土地に軍医だった父が小さな診療所を建て、『目の前に病んだ人がいれば、我が身を省みずに尽くす』という医療の精神を両親の背中を見て育った。医師は「人を診る」ことが仕事であり、誕生から死を受け入れるまで寄り添い、より健やかな人生を患者とともにつくりあげていくことを使命としている。これが「医療

の原点」であり、『日本の国民健康寿命を世界トップレベルにまで押し上げた我が国の医療システムやノウハウを広く世界に発信していきたい』という強い思いに繋がった。日本の健康寿命を世界トップレベルにまで押し上げた我が国の医療システムの背景には、「国民皆保険」の存在がある。世界が経験したことのない高齢社会を「安心」へと導くモデルもまた「国民皆保険」にあると確信しており、世界中の人々の幸福の実現に貢献していきたい。そして、さまざまな国、地域の医療課題についてより真摯に



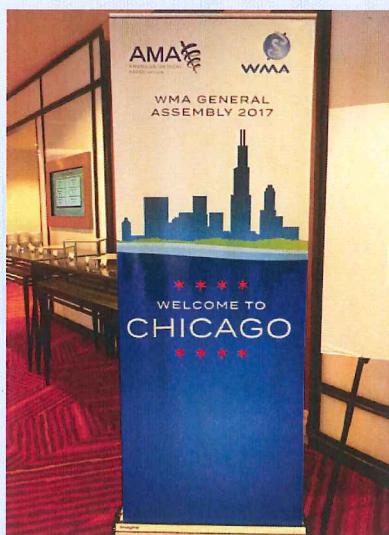
耳を傾け、解決に向けて取り組んでいく」と、昨年、次期会長選挙に立候補した思いと、世界医師会長就任にあたっての抱負を述べられた。

また、最後に、1960年代にシカゴ大学経済学部で教鞭をとつておられた経済学者故宇沢弘文先生の言葉を引用し、「医療が、『世界全体の社会的共通資本』となることを理想に掲げ、世界医師会を前進させていきたい」と述べられた。

日本人で世界医師会長に就任するのは、武見太郎元日医会長(1975年就任、第29代WMA会長)、坪井栄孝元日医会長(2000年就任、第52代WMA会長)以来、3人目となる。

今回のシカゴ総会では、「ヒポクラテスの誓い」の現代版として、医の倫理の規範を記載した世界医師会の最も重要な宣言である「ジュネーブ宣言」の改訂版が採択された。1948年に採択されて以降、修正を重ねてきたが大きな改訂を行うのは今回が初めてとなる。

今後は、終末期を巡る意見集約も行われる予定で、各国の積極的安楽死に極めて否定的であることが浮き彫りになる中、世界医師会としての対応が検討される予定である。



日本からの参加者と記念写真